

追悼の辞

永吉基治先生を九州産業大学商学部教授としてお迎えしたのは、平成6年4月のことでした。その後、11年間にわたって、先生は多くの学生を育て、社会へと送り出してくださいました。その先生の訃報に接し、驚きとともに寂寥感にとらわれたのは、前期試験もほとんど終わりかけた8月4日夕方のことでした。

先生は香川大学経済学部を卒業された後、神戸商科大学大学院修士課程、関西大学大学院博士課程へと進まれ、「アメリカにおける火災保険事業」に関する数々の論文を始め、一貫して、「保険とリスクマネジメント」についての研究を続けてこられました。

先生の教員生活は昭和50年に関西大学商学部専任講師に就任されたところから始まりましたが、昭和53年に第一経済大学経済学部に移られてからは、九産大時代を含めて、27年間にわたって、故郷の九州の地で活躍を続けてこられました。第一経済大学では教務部長の要職に就かれていたとお聞きしておりますし、本学でも多くの先生方の支持を得て、商学部第一部および第二部の商学科主任として、学部教育にご尽力いただきました。

先生は九州産業大学の学部と大学院で「保険論」や「リスクマネジメント論」などの専門科目を担当されましたが、先生の講義を受講された学生はいまでは数千人に及びました。先生の誠実な人柄に惹かれたゼミ生も多かったと聞いております。先生にはこれらの科目に加えて、教職科目である「商業科教育法」の担当をお願いしてきましたが、この分野での第一人者であることから、本学だけでなく、長崎大学など多くの大学で非常勤講師としても教鞭を取られました。九州の高校教員のなかには、先生の教え子も多いとお聞きしております。

いつもニコニコと笑顔を絶やさない方で、決して他人の悪口など口になさらなかったと記憶しております。このようなお人柄から、我々教職員にとっては、良き相談相手、良き先輩であり、多くの方々から慕われていたのは当然のことと言えるでしょう。私は個人的にも先生にいろいろなご相談をする機会が多かったのですが、先生の口癖は、「学生はみんな良い子達だよ」とか、「あの人には困ったところもあるけど、良い点がいっぱいあるからね」という言葉でした。いかにも人間味あふれる永吉先生らしい言葉でした。今でも先生が、笑いながら商学部事務室に顔をだされるような気がするのは私だけでしょうか。このような先生のお姿にもう接することができなくなり、さびしい限りですが、私たちはこの事実をしっかりと受け止めなければなりません。

心の中の永吉先生はこれからもずっと変わりませんが、九州産業大学商学会会員一同、先生の九州産業大学商学部でのご功績およびご恩に少しでも報いることができればと思い、商経論叢の特別号を作成し、墓前に捧げることにいたしました。

先生、ゆっくりとお休みください。そしてこれからも、私たち同僚、後輩および学生を見守ってください。さようなら。

九州産業大学商学会会長（商学部長）

高橋公忠